

親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ 2010

The workshop to make Yokkaichi Port familiar to citizen 2010

松浦健治郎¹⁾

Kenjiro Matsuura¹⁾

1. はじめに

本稿は昨年度に引き続き行った、四日市港管理組合と三重大学都市計画研究室との共同研究である「親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ～親しまれる港づくりの推進事業」の成果を取りまとめたものである。

昨年度の共同研究では、親しまれる四日市港づくりの100のアイデアを取りまとめたわけだが、今年度はそのアイデアの中ですぐに実現可能であり効果があると考えられる22のアイデアを実現化するために、大きく3つのプロジェクトを立ち上げた。

第1に、まち歩きマップの制作プロジェクトである。まちの資源を再発見し、それらを広く市民に情報発信するための手段として「まち歩きマップ」に注目した。5回のワークショップを開催し、昨年度のワークショップ参加者を中心とした多くの参加者の協力を得て、まち歩きマップを制作することができた。

第2に、いくつかのアイデアを実験的に実施するためのイベントプロジェクトである。秋の四日市祭と同日に「秋のみなとフェスタ2010～四日市旧港再発見」というイベントを開催した。このイベントでは、アイデアの一部であるガイドツアーやウォークラリー、船の見学会などを企画し、多くの人々に四日市港を再発見してもらうこと

を狙いとした。イベントの企画・実施体制として、四日市港に関わる各種組織の代表者による四日市港まち歩き実行委員会を組織し、イベントの内容を協議した。当日は天候に恵まれなかったものの、約1200名の参加者があった。また、イベントスタッフとしてガイドボランティアなど多くの市民の協力を得ることが出来た。

第3に、活動内容をPRするためのホームページ製作・管理プロジェクトである。三重大学都市計画研究室が中心となってホームページを制作・管理し、ワークショップの結果や秋のみなとフェスタ2010などの情報を適宜、更新している。

このようにして、いくつかのまちづくりの種をまくことができた。それぞれの種が芽を出し、葉が生い茂り、花を咲かせるためにはもう少し時間がかかるだろう。大切なことは、これらのまちづくりの取り組みを多主体連携により継続的に進めていくことである。

なお、本稿では紙面の都合上、報告書³⁾の一部を抜粋して紹介する。

2. まち歩きマップ製作のためのワークショップ

第1回ワークショップでは、四日市港地区のまち歩きにより、地域資源を確認した。第2回ワー

¹⁾三重大学大学院工学研究科建築学専攻 Department of Architecture, Faculty of Engineering, Mie University

クショップでは、四日市港地区のまちづくりの歴史の整理、散策マップに掲載する情報についての意見交換を行った。第3回ワークショップでは、4つの起点・終点から始まる散策ルートを検討した。第4回ワークショップでは、なやプラザを起点とする散策ルートについて、実際に歩いた上で、修正意見を検討した。第5回ワークショップでは、これまでの検討結果を踏まえて散策マップ案が発表され、散策マップ案に対する修正意見を検討した。

(1) 第1回ワークショップ

2009年度の成果発表の後、今年度のワークショップのガイダンスを行った。次に、4つのグループに分かれて、四日市港地区の地域資源確認のために散策会を実施した。最後に、散策結果のまとめと散策マップに入れる情報に関するアイデア出しを行った。最後に全体発表があった。

(2) 第2回ワークショップ

始めに本ワークショップに関する新聞記事やテレビ報道の紹介を行った。次に、第1回ワークショップの結果の発表と四日市港地区のまちづくりの歴史の変遷、四日市港地区の写真の昔と現在、昨年度と第1回ワークショップの結果を踏まえた四日市港地区の資源マップの発表があった。次に、散策マップに掲載する情報についての意見交換を行った。最後に全体発表があった。

(3) 第3回ワークショップ

イベント分科会の途中経過報告の後、第2回ワークショップの結果の発表、第2回ワークショップの結果を踏まえた資源マップの発表があった。次に、4つのグループに分かれて、4つの起点・終点(近鉄四日市駅、JR 四日市駅、なやプラザ、



写真1：第2回ワークショップの風景写真

みなと公園)から始まる散策ルートを検討した。最後に全体発表があった。

(4) 第4回ワークショップ

イベント分科会の途中経過報告の後、第3回ワークショップの結果の発表があった。散策ルートの中でも秋のイベント時にガイドツアーが予定されている「なやプラザ」を起点とするルートに注目し、3つのグループに分かれて、なやプラザを起点・終点とする散策ルートの修正案を検討し、実際に歩いて確認し、修正点等を検討した。最後に全体発表があった。

(5) 第5回ワークショップ

イベント分科会の途中経過報告の後、第4回ワークショップの結果の発表があった。次に、これまでのワークショップの結果を基にした散策マップ案が発表され、その後、3つのグループに分かれて、グループ毎に散策マップへの修正意見を検討した。最後に全体発表があった。

(6) まち歩きマップの製作

ワークショップの結果を踏まえて、まち歩きマップが製作された。A2 版両面カラー、携帯用にA5 サイズに折りたためるようにした。

(7) ワークショップ参加者の属性

ワークショップ参加者の属性を見ると、多い順に、①行政職員(四日市市役所、四日市港管理組合):16名、②一・般公募:14名、③ボランティア、NPO(みなとサポーター、みなと講座卒業生、NPO 法人市民社会研究所):11名、④港運関係企業(近鉄、三重交通)、と続く。

3. 秋のみなとフェスタ 2010 の開催

(1) 組織構成と分科会・委員会での検討内容

昨年度提案された100のアイデアカードの一部を社会実験的に実践するイベント・プロジェクトを実行するための委員会を組織した。

まず、実行委員会を立ち上げる前に、4回のイベント分科会を開催して、イベント内容等を検討した。その後、関係団体の代表者を構成員とする「四日市港まちあるき実行委員会」を立ち上げ、4回の実行委員会を開催した。イベント分科会及

びまちあるき実行委員会のメンバー構成は下図の通りである。

以下、イベント分科会、実行委員会の概要について整理する。

1) 第1回イベント分科会

イベント分科会の役割及びイベント開催までのスケジュールについて確認した。イベントの日程案について、秋の四日市まつりや港湾荷役の関係から協議し、10月3日に開催する方向で進めていくこととした。社会実験イベントについては、昨年度のワークショップで検討した100のアイデアの中から、事務局で実現性やWSでの意見を反映させて10～20程度に絞りこみ、それを土台に次回から検討することとした。その他として、イベントの内容等によって、当日の運営や事前の準備について協力を依頼することとした。

2) 第2回イベント分科会

イベントの内容について協議し、以下のことを確認した。イベントの実施主体については、今後、検討する。イベントは、マップを使った散策をメインの行事とする。散策は、自由散策とガイドツアーが考えられ、ガイドツアーについては事前募集とする。ガイドツアーについては、過去に港サポーターが行った方法を参考にして、一回の人員数や募集のやり方について、十分に検討したうえで行う。特に安全対策が重要であり、パトロールする車や沿道警備、ガイドと参加者の人数を最適にするように計画する。今回、100のアイデアを24まで絞り込んだ案となっているが、これを基に今後イベントで実施するアイデアを決定する。

3) 第3回イベント分科会

イベントの開催主体について以下のことを決定した。イベントを行うにあたり、組織を作ることが必要となるため、実行委員会形式で開催することとする。実行委員会の構成については、現在のイベント分科会と同じ構成のメンバーに管理組合から個別に依頼していく。委員の役割としては、現在のイベント分科会への参加と同等で、当日の動員や開催への協力については、個別で依頼する。イベントの名称については、次回、各自案

を持ち寄って決定することとした。開催日は10月3日で決定とした。社会実験イベントについては、今回の議論を踏まえ、個々のアイデアについて絞り込んだ上で、管理組合で必要予算・人員について検討し、次回提案することとした。その他として、次回の分科会の日程を確認した。

4) 第4回イベント分科会

実行委員会の構成、規約については事務局案で了承された。第1回実行委員会の開催日については、8月末から9月上旬で調整することとした。イベント名称について検討の結果、「秋のみなとフェスタ2010～四日市旧港再発見」に決定した。イベント概要については、ガイドツアーをメインイベントとして、飲食ブースなど、人が集まりやすいものにするよう検討することとした。イベント当日の運営については、スタッフが50名ほど必要となるため、WSメンバーに声かけするとともに、実行委員会構成メンバーに動員の依頼を個別で行うこととした。

5) 第1回四日市港まちあるき実行委員会

四日市港まちあるき実行委員会規約(案)について、事務局案を提出し、承認された。役員の選出について、事務局案を提出し、承認された。事業計画(案)について、資料に基づき「みなとフェスタ2010」と散策マップについて事務局が説明し、承認された。予算(案)について、事務局案を提出し、承認された。

6) 第2回四日市港まちあるき実行委員会

秋のみなとフェスタ2010について、四日市港管理組合、三重大学からイベント報告があった。来年度以降に備えて課題を整理した。通年版まち歩きマップについては、イベント時に配布したまち歩きマップを基にして通年版まち歩きマップを制作することとした。最後に、来年度以降の取り組みについて意見交換を行った。

7) 第3回四日市港まちあるき実行委員会

秋のみなとフェスタ2010の検証について事務局から説明があり、委員から今後の課題についての意見があった。通年版まちあるきマップについては、事務局から現在の作業状況の説明があり、

委員からマップのレイアウト等についての意見があった。平成 23 年度の事業については、引き続き、みなとフェスタを実施することを確認した。

8) 第 4 回四日市港まちあるき実行委員会

まず、平成 23 年度以降も継続して実行委員会を開催するために規約の変更等の提案があり、承認された。次に、平成 22 年度の収支決算見込について報告があり、来年度に向けて決算処理を進めることとした。四日市港まち歩きマップ案が示され、委員から案に対する修正意見が出た。修正を行った上で四日市港まち歩きマップを印刷することとした。秋のみなとフェスタ 2010 の検証について、前回の内容を踏まえて、全体のまとめをとりまとめたものが事務局から説明された。最後に平成 23 年度の四日市港まちあるき実行委員会について、事務局から、多様な主体が集まり、ハード・ソフトの両面から意見を交換する場づくりを考えている旨の提案があった。具体的な内容については、固まり次第、連絡することとした。

(2) 秋のみなとフェスタ 2010 の概要

1) オープニング「本気のラジオ体操」

市民団体による「本気のラジオ体操」で準備運動をした。「本気のラジオ体操」の後、参加者で散策コースのゴミ拾いを実施した。

2) 講演会・報告会

映画監督瀬木直貴氏の講演会とワークショップの成果報告会を開催した。

3) 港の展示会

市立博物館協力による港の歴史展示、三重大生による卒業・修士設計の展示、ワークショップの取り組みを紹介したパネル展示をした。

4) ガイドツアー

語り部による散策ガイドツアーを実施した。

5) ウォークラリー

散策コース内各所に設置した地域資源に関するクイズに答えると景品がもらえるウォークラリーを実施した。

6) フードコート

拠点会場に飲食ブースを設置した。国の登録有形文化財に指定された浜松茂ではイベント特別企画のお茶会を開催した。

7) 作業船見学会

タグボート「ちとせ丸」や海上保安庁消防船「しょうりゅう」など、港で働く船の見学会を実施した。

8) 体験クルーズ

港内巡視船かもめで四日市港を 1 周し、普段見ることのできない海上から港を見学した。

9) まち歩きマップの配布

JR 四日市駅、近鉄四日市駅でまち歩きマップを配布した。

10.3 MINATO FESTA
秋のみなとフェスタ2010 秋の四日市祭同日開催
2010年10月3日(日) 午前8:30～午後4:00
メイン会場 ★なやプラザ ★千歳棧橋

オープニング
「I LOVE 地元」近藤隆洋さんによる「本気のラジオ体操」
場所: ★なやプラザ
時間: 8:30～9:30

講演会・成果報告会
四日市出身の映画監督、瀬木直貴さんの講演会
観しめる港づくりのためのワークショップの成果報告会
場所: ★なやプラザ体育館
時間: 10:00～11:30

港巡りウォークラリー
港歩きマップを手に各所を巡りクイズに答えて景品をGETしよう
マップ配布場所: JR四日市駅、近鉄四日市駅、なやプラザ、千歳棧橋、四日市港
配布時間: 9:00～16:00

散策ガイドツアー
車イス・ベビーカーも安心のバリアフリーコースがあります
所要時間: 30分
所要定員: 10名
所要料金: 無料
場所: ★なやプラザより順次出発
時間: 12:00集合
14:00集合

巡視船「かもめ」体験クルーズ
四日市港を周から見よう
所要時間: 30分
所要定員: 10名
所要料金: 無料
場所: ★千歳棧橋より出発
時間: 12:00出発
14:00出発

港ではたらく船の見学会
タグボート「ちとせ丸」、消防船「しょうりゅう」の内部を見よう
場所: ★千歳棧橋
時間: 13:00～16:00 (受付は15:30まで)

※「散策ガイドツアー」と「巡視船「かもめ」体験クルーズ」は、事前申し込みが必要です。

オープニングフェ
場所: ★稲葉忠雄記念公園の広場
時間: 10:00～15:00

フードコート
場所: ★なやプラザ
時間: 11:00～16:00

港に関する展示
[歴史・文化の展示] 三重大生卒業設計・修士設計
場所: ★なやプラザ体育館
時間: 9:00～16:00 協力: 四日市博物館

レンタルサイクル(有償)
場所: ★近鉄四日市駅、★JR四日市駅
時間: 8:00～16:00

お茶会@浜松茂 場所: 浜松茂 料金: 500円(お茶・菓子) 時間: 13:00～16:00

四日市港まちあるき実行委員会
www.p.m.f.a.c.jp/yokkaichi-port
緊急連絡先: 080-3759-7817

マップ配布場所
★JR四日市駅、★近鉄四日市駅、★なやプラザ、★千歳棧橋、四日市港
★は、臨時駐車場。チラシにある★★会場と地図内にある★★会場、場所をご確認ください。

図1 みなとフェスタ・チラシ



写真 2:講演会・報告会の風景



写真 3:ガイドツアーの風景



写真 4:体験クルーズの風景

10) レンタサイクル

JR 四日市駅、近鉄四日市駅でレンタサイクルのサービスを実施した。

11) 臨時駐車場

WS で提案されたアイデアをもとに企業の駐車場を臨時駐車場として活用した。

(3) 参加者アンケート調査結果の概要

2010 年 10 月に実施された「秋のみなとフェスタ 2010～四日市旧港再発見」において、取り組み内容に対して、効果の測定や課題を把握するために、一般参加者を対象にアンケート調査を行った。

1) 調査の概要、回答者の属性

調査対象:「秋のみなとフェスタ 2010～四日市旧港再発見」の一般参加者、実施時期:2010 年 10 月 3 日(日)、回答者数:65 人、性別:男性(36 人)、女性(29 人)、年齢:～40 歳代(35 人)、50 歳代～(28 人)、無回答(2 人、回答者の住まい:四日市港周辺(4 人)、四日市市内(40 人)、三重県内(20 人)、三重県外(1 人)、である。

2) イベント参加者の傾向

回答者の構成については、回答者の約 34%で「2 人」、31%で「3 人」と 2～3 人でイベントに参加している割合が高く、回答者の半数以上の約 62%が家族でイベントに参加していることがわかる。イベントに訪れたきっかけについては、みなとフェスタをイベントチラシで知った人が全体の約 47%を占めた。次いで「友人・知人から」(約 20%)、「市広報」(約 9%)となった。

実際に参加した理由として、「イベント内容に興味があったから」(約 55%)最も高い結果となった。

3) イベント参加者の評価

四日市旧港に対して、参加者のイベント前に持っていた印象とイベントを終えてからの印象を比較した。その結果、「良い」「どちらかといえば良い」と回答している人がイベント前(約 57%)に比べて、イベント後(約 84%)の方が多くなっていることがわかる。イベントが四日市旧港の印象を向上させる効果があったといえる。

イベントの全体の感想について、約 88%の回答者が「大いに満足した」「満足した」と回答していることから、イベントの評価が高いことがわかる。

また、今回の主要イベントであった、「巡視船体験クルーズ」「散策ガイドツアー」は全体の 80%以上の回答者に満足されており、「港巡りウォークラリー」に関しても、全体の 70%以上の参加者が満足していることがわかる。

4) 散策マップの評価

2010 年度に作成した散策マップについて、マップの大きさ・文字の大きさ・色使い・地域資源

の参照のしやすさの観点から評価をして頂いた。マップの大きさ、文字の大きさ、色使い、地域資源の参照のしやすさ全ての項目に関して 80%以上の回答者が「ちょうど良い」と回答している。年齢別にみると、10～40 歳代で「マップの大きさが大きすぎる」(約 20%)、50 歳代以上で「文字の大きさが小さすぎる」(約 39%)と回答する割合が高いことがわかる。

5) マップ看板・地域資源案内看板の評価

現在値を示すマップ看板と四日市旧港の地域資源を案内する地域資源案内看板について、看板の大きさ・文字の大きさの観点から評価をして頂いた。マップ看板に関しては看板の大きさ、文字の大きさともに 80%以上の回答者が「ちょうど良い」と回答しているが、一・部の参加者は看板・文字が小さすぎると回答している。地域資源案内看板に関しては、マップ看板同様、看板の大きさ、文字の大きさともに 80%以上の回答者が「ちょうど良い」と回答しているが、年齢別にみると、10～40 歳代で「文字が大きすぎる」と感じている人もいることがわかる。

6) 四日市旧港の魅力を高める施策

四日市旧港を散策する上での問題点を 2 つまで選択してもらった。その結果、「休憩所が少ない」(約 18%)が最も多く、次いで「駐車場が少ない」(約 16%)「公共トイレが少ない」(約 12%)となった。このことから、散策するための環境づくりの重要性が伺える。

今後、四日市旧港の魅力を高める施策として効果的だと思われるものを 3 つまで選択してもらった。「6. 海や船を活用したイベントの実施」が約 58%を占め最も高く、次いで、「10. 倉庫街を活用したカフェ・市場」(約 44%)となった。この結果から、四日市港の魅力を高める上で、工業港という特徴を活かしたイベントを期待していること

がわかる。

7) まとめ

「みなとフェスタ」参加者に対するアンケート調査の結果、イベントを通して四日市旧港への印象の向上につながったことが確認された。また、散策マップ・案内看板に関しては、全体的な評価は高いものの、文字の大きさ等、再検討する必要があることがわかった。

今後、親しまれる港づくりを目指すにあたって、四日市港を「知ってもらう」ために広報を充実させ、「来てもらう」ためにアクセスを整備し、「楽しんでもらう」ためにイベントを開催するといった、一連の継続的な活動が求められる。そのためには、検証結果をもとにアイデアの微修正を行い、アイデアを実践するプロジェクトパートナーシップの仕組みを定常化させることが課題である。

4. ホームページの制作・管理

2009 年度、2010 年度の活動内容を紹介するホームページ

(<http://www.p.arch.mie-u.ac.jp/yokkaichi-port/>)を製作・管理した。ホームページの構成は、1)ワークショップの概要、2)メンバー、3)2009 年度の成果、4)2010 年度スケジュール、5)2010 年度 WS の結果、6)テレビ・新聞記事等、7)秋のみなとフェスタ 2010、8)リンク、となっている。

2010 年 6 月 15 日にホームページを公開し、ワークショップやイベント開催に合わせて随時、更新を続けている。

参考文献

1)三重大学都市計画研究室・四日市港管理組合：「親しまれる四日市港づくりのためのワークショップ 2010 一親しまれる港づくりの推進事業報告書」(2011.3)